

(1) 法人設立と農地集積・集約化 事例③ (川西町大塚西部地区)

モデル地区

重点実施区域

事例のポイント

- 人・農地プランの話合いを通して、集落営農組織を経ずに法人を立ち上げた。
- 集落ビジョンづくりワークショップを開催し、農地集積・集約化の話合い等を行った。

地区概要・特徴

- 大塚西部地区は、川西町北部に位置し、一級河川元宿川の左岸に展開する水田地帯である。
- 生産基盤については、水田の区画と農道が狭小、水路の一部を除き土水路で、維持管理に多大な労力を要しているほか、農業機械の大型化への対応及び施設の維持管理に多大な労力を費やしている状況であり、担い手への農地集積を図るうえで阻害要因となっている。
- 家族農業で農作業をしているが、高齢化と共に年々作業が厳しくなっているなどの課題が顕著化していた。

取組み経過・支援等

- 人・農地プランの見直しやワークショップを通して、地域の農地を今後どのように守るかについて話合いを行った。
- ほ場整備事業の実施を契機に、地域の農地を守る目的で平成27年11月に「菊田農事組合法人」を設立した。
- 地域集積協力金により育苗ハウス、農業用倉庫の整備を行った。

成果

- 法人の設立により、経営基盤の拡大で36.02haの農地を機構から計画的に借り入れた。
- 地域集積協力金の活用
 - ・施設整備（育苗ハウス、農業用倉庫）



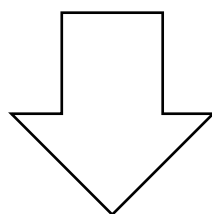
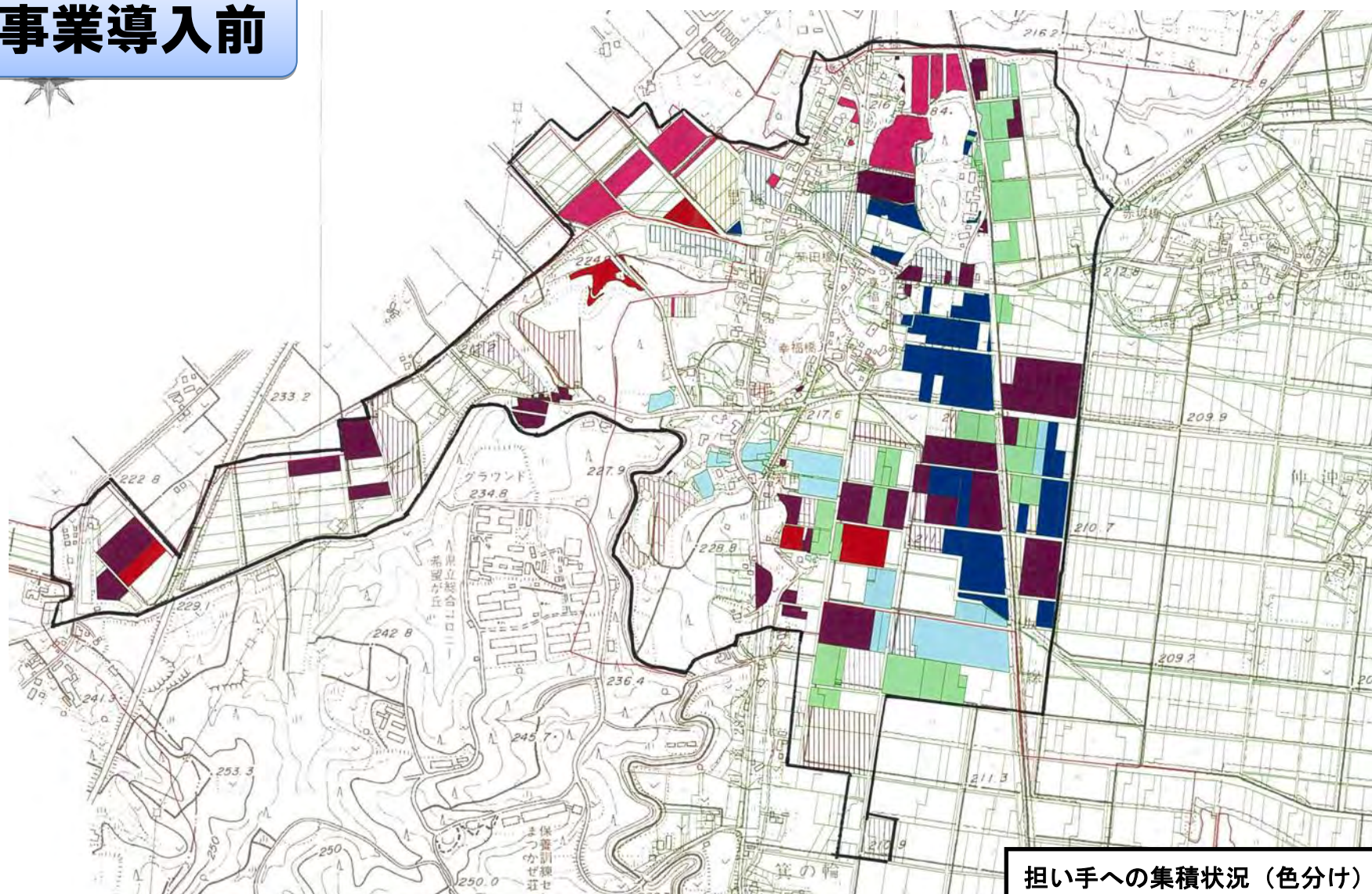
人・農地プランの話合い状況



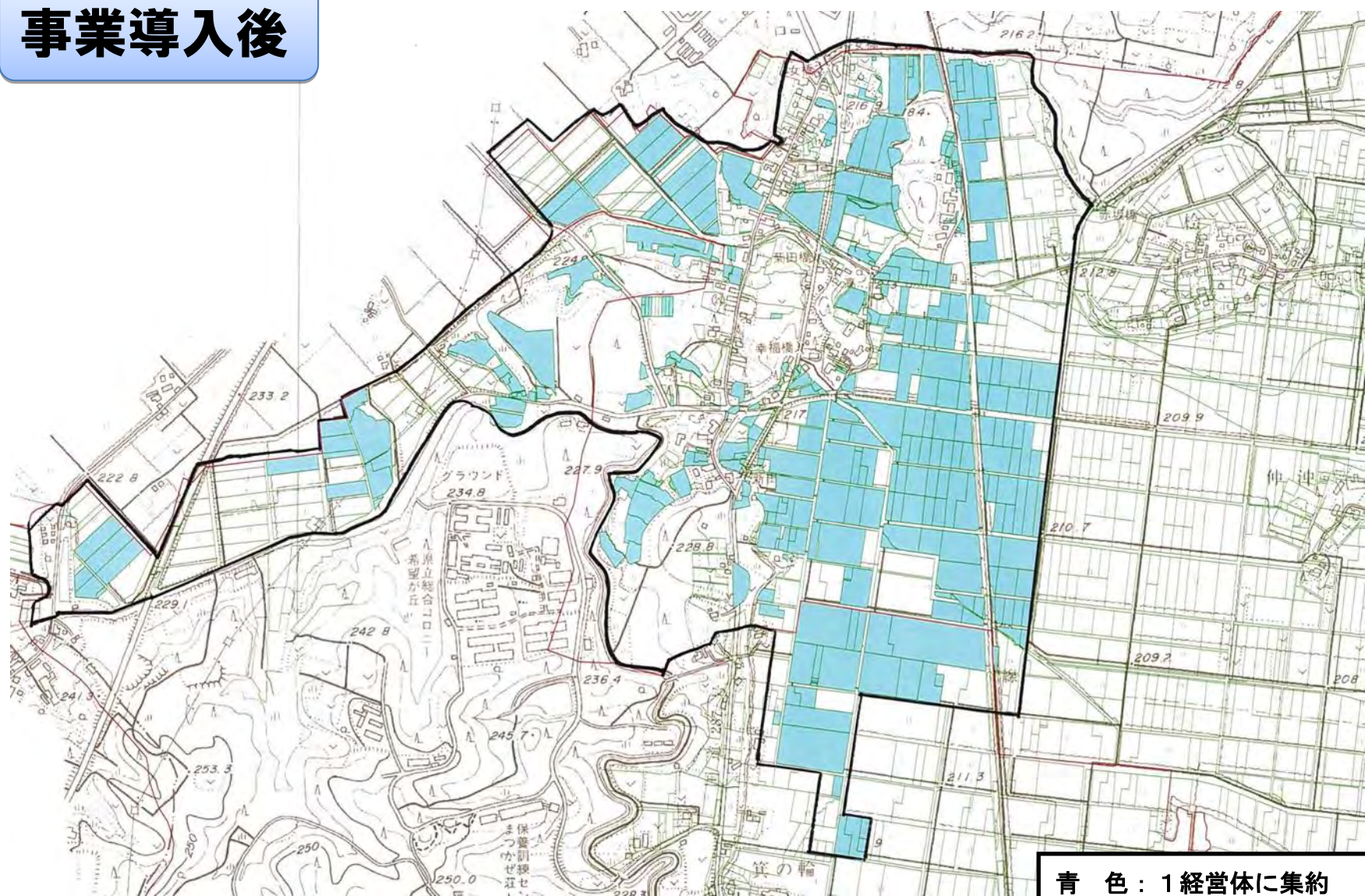
集落ビジョンづくりワークショップ

機構事業の導入前・導入後の集積状況（平成28年12月末現在）

事業導入前



事業導入後



項目	地域面積①	担い手面積②	うち機構借受面積	担い手数	集積率②/①	主な担い手
事業導入前	69.25ha	24.50ha		7 経営体	35.3%	菊田農事組合法人
事業導入後		36.02ha	36.02ha	1 経営体	52.0%	